

環動車の会報告

イスラム教の宗派の差異と概要

I. イスラム教スンニ派とシア派の起源と両派間の差異

1. 起源は、ムハンマド死後の後継者問題(632年:メッカ征服の2年後)

争点:「誰がイスラム共同体の正統な指導者(カリフ)になるべきか」

● スンニ派(Sunni)<語源:共同体の慣行(スンナ)に従う者>

- ・ 後継者は、イスラム共同体(ウンマ)の合意によって選ばれるべきという立場
- ・ 初代カリフとして、アブー・バクル(ムハンマドの後妻アイーシャの父親)を擁立

● シア派(Shia)<語源:「アリーの党派(Shiat Ali)」>

- ・ 後継者は、ムハンマドの血筋から出るべき
- ・ 従兄弟兼義理の息子である「アリー(後に第4代カリフ・初代イマーム)」が正統な後継者

2. 歴史的展開の違い

■ スンニ派

- ・ イスラム帝国(ウマイヤ朝、アッバース朝)で主流、国家権力と宗教権威が比較的分離。
- ・ イスラム法学者(ウラマー)が宗教的権威／政治権力者(カリフ・スルタン)は別

■ シア派

- ・ 歴史の多くの期間で少数派、迫害や抑圧を経験
- ・ イマーム(正統後継者)への精神的忠誠が中心的因素
- ・ 16世紀にイラン・サファヴィー朝が十二イマーム派を国教化、シア派イランの原型を形成

3. 思想・教義の主要差異

(1) 指導者(後継者)概念

● スンニ派

- ・ 指導者(カリフ)は「共同体の合意で選ばれる」、宗教的に絶対性は無い
- ・ 現代ではカリフ制の国ではなく、政治と宗教は分化(1924年:トルコオスマン朝カリフ制廃止)

● シア派

- ・ アリーとその子孫を「イマーム」として重視
- ・ イマームは、宗教的・道徳的に無謬性(誤りがない)を持つ
- ・ 十二イマーム派の中心教義:最後の第12イマームは“お隠れ”、終末に再臨(マフディー)

(2) 宗教法・権威構造

● スンニ派

- ・ コーランと預言者の慣行(スンナ)を重視
- ・ 4つの法学派(ハンバル、シャーフィイー、ハナフィー、マーリク)
- ・ 宗教権威は、法学者の合意(イジュマー)に基づく

● シア派

- ・ コーランとスンナに加え、イマームの言行が法源
- ・ 主要法学派:ジャアファル法学派(学祖:第6代イマームのジャアファル・サーディク)
- ・ 宗教権威:高位法学者(マルジャ)に集中、最高法学者への帰属(宗教税フムスの支払い先)
- ・ 「模倣(タクリード)」:信徒は特定のマルジャに従う義務

(3) 神学(信仰理解)の違い

● スンニ派

- ・ 理論は比較的保守的、啓示(シャリーア)重視

● シア派

- ・ 神義論(なぜ迫害・苦難があるのか)を重視、神の正義(アドル)が信仰の柱
- ・ 哲学的思弁に比較的寛容(特にイラン)

(4) 行動様式・宗教実践の違い

・ 宗教儀礼

| 項目 | スンニ派 | シア派 |
|---------------|--------|-------------------------------|
| 礼拝 | 1日5回 | 1日5回だが「3回に統合」可 |
| アザーン(呼びかけ) | 標準形 | 「アリーは神の友(ワリー)である」を挿入する場合あり |
| アーシュラー(殉教記念日) | 断食など | アリーの子フサインの殉教の大規模追悼行事(行列・演劇など) |
| 巡礼(ナジフ・カールバラ) | 必須ではない | 聖地巡礼(イマームの墓巡り)を重視 |

- ・ シア派の特徴的儀礼:「アシュラー」

イラク・カルバラの戦い(680年)でフサイン(アリーの息子)殉教(ウマイア軍の包囲・全滅)

5. 社会構造・政治制度の違い

■ ソンニ派国家

多様だが、一般的傾向は:

- 宗教指導者は国家からある程度分離(例:エジプト・アズハル大学)、国家の政治体制は様々
- 宗教は政治正統性の一部だが、神権政治は少ない

(例)サウジはソンニ派ワッハーブ主義との結合で強い宗教色、しかしイラン程の神権制ではなかった

■ シーア派国家

代表例:イランの「ウイラーヤト・ファキーフ(法学者の統治)」

- 最上位の法学者(最高指導者)が国家の最終的権威
- 監督評議会、専門家会議、公益判別評議会などで宗教法学者が政治制度に深く関与
- 宗教指導者(マルジヤ)と政治権力が統合、ムス(所得の1/5)の管理

イランほど制度化されていないが、イラク(シスターイ師)やレバノンの宗教指導者の影響力は大きい

6. 宗教文化・価値観の違い

■ ソンニ派

- 共同体の調和と統一を重視、権力に対して比較的協調的アプローチ(伝統的傾向)

■ シーア派

- 抑圧への抵抗、正義・殉教の精神を重視、歴史的迫害の記憶が宗教文化を形成
- 政治運動への動員力が強い(例:レバノン・ヒズボラ、イラン革命・ホメイニ師)

7. 現代の地理的分布

■ ソンニ派(全イスラム人口の約85-90%):中東(サウジ、エジプト、トルコ、UAE、ヨルダン等)

北アフリカ(モロッコ等)、南・東南アジア(インドネシア、パキスタン、バングラデシュ等)

■ シーア派(約10-15%)

イラン(国民の約90%)、イラク(60-65%)、アゼルバイジャン(主流)、レバノン(多数派)
バーレーン、イエメン北部(ザイド派・フーシ派)、サウジアラビア東部(油田地帯)など

8. 要点

| 区分 | ソンニ派 | シーア派 |
|--------|------------|----------------------|
| 分裂原因 | 後継者は共同体の合意 | 後継者はアリ一家系 |
| 宗教指導者 | 法学者の合意重視 | イマーム(血統)+高位法学者(マルジヤ) |
| 中心地域 | 中東広域・南アジア | イラン・イラク・レバノンなど |
| 歴史経験 | 権力掌握が多い | 少数派・迫害の歴史 |
| 世界人口割合 | 約85-90% | 約10-15% |
| 政治制度 | 国家ごとに多様 | イランに代表される法学者統治も |
| 宗教文化 | 共同体重視 | 殉教・正義・抵抗を重視 |

II. ソンニ派内部の分派(①法学派(フイクフ)、②神学潮流、③宗教運動・改革潮流)

1. ソンニ派の基本構造

- ソンニ派は教義(信仰の中核)では一体
- 差異は主に、①イスラム法の解釈方法、②神学的立場、③宗教実践・社会運動のスタイル
- 分派間に「異端—正統」の断絶は基本的にない(=相互承認が原則)

2. 法学派(フイクフ) ソンニ派の中核的区分、4大法学派はいずれも正統

(1) ハナフィー派(Hanafi):最大派閥

- 創始者:アブー・ハニーフア(8世紀、イラク)
- 特徴:理性(推論・類推)を比較的重視、柔軟で現実適応型
- 地域:トルコ、バルカン、中央アジア、南アジア(インド・パキスタン・バングラデシュ)
- 歴史的背景:オスマン帝国の公式法学派

(2) マーリク派(Maliki)

- 創始者:マーリク・イブン・アナス(8世紀、メディナ)
- 特徴:メディナ共同体の慣行を重視、伝統・慣習への尊重
- 地域:北アフリカ(モロッコ、アルジェリア、チュニジア)、西アフリカ
- 性格:保守的だが社会慣行に寛容

(3) シャーフィー派(Shafi'i):法理論の体系化

- 創始者:シャーフィイー(8~9世紀、イラクで学説、エジプトで完成)
- 特徴:ウスール・アル・フィクフ(シャリーाの法規範を正統に導出するための理論体系)確立
- 地域:エジプト南部、東アフリカ、東南アジア
- 性格:中庸・均衡型

(4) ハンバル派(Hanbali):最も厳格

- 創始者:アフマド・イブン・ハンバル(8~9世紀、イラク)
- 特徴:啓示重視、理性解釈を極力排除、最も保守的
- 地域:サウジアラビア(事実上の国教法学派)
- 重要点:ワッハーブ主義・サラフィー主義の法的基盤

■ 4 法学派の位置づけ

| 法学派 | 柔軟性 | 地域的影響 |
|---------|-----|-------------|
| ハナフィー | 高 | 南・中央アジア、トルコ |
| マーリク | 中 | 北・西アフリカ |
| シャーフィイー | 中 | エジプト・東南アジア |
| ハンバル | 低 | サウジ |

3. 神学潮流(信仰理解の違い):法学派と直交する分類。

(1) アシュアリー派(Ash'ari):最大・主流神学

- 創始者:アブー・ハサン・アル・アシュアリー(9~10世紀、イラク)
- 特徴:啓示優位だが理性も限定的に使用、神の全能性を強調
- 主な支持シャーフィイー派、マーリク派、一部ハナフィー派
- 地域:エジプト、北アフリカ、東南アジア

(2) マートウリーディー派(Maturidi):ハナフィーと結合

- 創始者:マートウリーディー(~10世紀)
- 特徴:理性の役割を比較的高く評価、道徳理性の独立性を認める
- 主な支持:ハナフィー派
- 地域:トルコ、中央アジア、南アジア

(3) 伝統主義(アサリー／ハンバリー神学):文字通り解釈

- 特徴:神の属性を比喩解釈しない、哲学・神学的議論を忌避
- 地域:サウジアラビア、ペルシャ湾岸
- 現代形態:サラフィー主義

4. 宗教運動・改革潮流:近代以降の重要な分類。

(1) サラフィー主義(Salafism):初期イスラム回帰

- 理想:最初の3世代(サラフ)への回帰
- 特徴:ビドア(新奇な宗教実践)排除、墓参拝・聖者崇拜を否定
- 類型:静穏派:非政治 or 政治サラフィー、過激派:ジハード主義サラフィー

(2) ワッハーブ主義(改革運動):サラフィーの一種

- 創始者:ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブ(8世紀、サウジアラビアアラビア)
- 特徴:厳格な一神信仰(タウヒード)強調、サウド家と同盟
- 地域:サウジアラビア

(3) スーフィズム(イスラム神秘主義):多数の教団(タリーカ)

- 特徴:内面的信仰、修行・詩・音楽、聖者(ワリー)崇敬
- 代表的教団:カーディリーヤ、ナクシュバンディーヤ、ティジャーニーヤ
- 地域:南アジア、アフリカ、トルコ
- 注意:法学派を超えて存在、サラフィーと対立しやすい

5. 全体整理

| 分類軸 | 主な宗派・潮流 |
|-----|-------------------------|
| 法学派 | ハナフィー／マーリク／シャーフィイー／ハンバル |
| 神学 | アシュアリー／マートウリーディー／アサリー |
| 運動 | サラフィー／ワッハーブ／スーフィー |

6. 政治・国際関係での含意

- 「スンニ派=一枚岩」ではない
- 国家毎に支配的法学派・神学が異なる
- サラフィー／非サラフィーの違いが、国内統治、対外宗教外交、過激主義対策に直結

- UAE・モロッコ等は「稳健スンニ派(アシュアリー・スーアーイー)」を国家戦略として採用

III. シーア派内部の分派(①イマームの系譜(継承)、②教義・法学、③地理的・政治的特徴)

1. シーア派分派の基本構造

- シーア派の分派は、「何代目のイマームを正統とするか」で分岐
- それに独自の神学、法体系、宗教指導者制度、政治文化が形成されている
- 相互に「シーア派」という大枠は共有するが、実態は相当異なる

2. 主な宗派(最重要)

(1) 十二イマーム派(Ithna 'Ashariyya):最大宗派(世界のシーア派の約 85–90%)

■ 基本

- 正統イマーム: アリーから第 12 代ムハンマド・マフディーまで
- 第 12 イマームは「お隠れ(ガイバ)」、終末に再臨すると信仰

■ 特徴

- 法学派: ジャアファル法学派
- 宗教指導:
マルジャ・タクリード(最高権威法学者)制度、信徒は特定のマルジャに従う
- 政治思想: 伝統的には非政治的
但し、イランでは「ウイラーヤト・ファキーフ(法学者統治)」が登場

■ 主な地域 イラン(国教)、イラク(多数派)、アゼルバイジャン、バーレーン(人口多数派)、レバノン

(2) イスマーハーリー派(Ismaili): 第 7 代で分岐

■ 基本

- 第 6 代イマーム・ジャアファル死後、イスマーハーリーを継承者(十二イマーム派はムーサー)
- 秘教的・哲学的傾向が強い

■ 特徴

- クルーンの象徴的・内面的解釈(バーティン)、組織性が極めて高い
指導者は生きているイマーム

■ 主な分派

● ニザール派: 現在の指導者: アーガー・ハーン、稳健・教育重視、世界各地にディアスポラ

● ムスタアリー派: 主にインド系(ボフラ)、イエメン起源

■ 主な地域 インド、パキスタン、東アフリカ、欧米

(3) ザイド派(Zaydi): イエメン系シーア派

■ 基本 第 5 代イマーム・ザイドを正統、十二イマーム派よりスンニ派に近い

■ 特徴 法学・儀礼がスンニ派(特にシャーフィー派)に近い

「お隠れイマーム」思想なし、イマームは血統+能力+蜂起で正統化

■ 主な地域 イエメン北部: フーシ派(アンサール・アッラー)の宗派的基盤

3. その他・周縁的分派

(1) アラウイー派(Alawite／旧称ヌサイリー派): シリアのアサド家の宗派、シリア沿岸部中心

- 十二イマーム派を基盤に強い秘教性、神学的に独立性が高く、他のシーア派からも異端視

(2) ドゥルーズ派

- 11 世紀にエジプト・イスマーハーリー派から派生、秘儀的宗派、布教不可、儀式・典礼なし
- レバノン、イスラエル、シリア (イスラエルを国家承認)

4. 比較表

| 宗派 | イマーム数 | 特徴 | 主地域 |
|-----------|-------|----------------|---------|
| 十二イマーム派 | 12 | マルジャ制度、法学者統治 | イラン、イラク |
| イスマーハーリー派 | 7 系 | 秘教・哲学的、生きたイマーム | 南アジア、欧米 |
| ザイド派 | 5 系 | スンニ派に近い | イエメン |
| アラウイー派 | 独自 | 秘教的、政治支配層 | シリア |
| ドゥルーズ派 | 独自 | 独立宗教的 | レバノン等 |

5. 政治・国際関係上の含意(要点)

- 「シーア派=イラン」ではない
- 十二イマーム派の内部ですら反イラン(ナジャフ学派)、親イラン(コム学派)が存在

- イエメンのフーシ派は、神学的にはザイド派、政治的にはイラン接近
- イスマーハール派は政治過激化と無縁

<参考>

1. 主なイスラム過激派と宗派

(1) アルカイダ

- ・ 思想: サラフィー・ジハード主義(サラフィー主義やスンニ派主流は強く否定)
- ・ 遠い敵: 欧米⇒近い敵: 背教的イスラム政権・体制協力的なウラマー
- ・ 戦略: グローバル・ジハード
- ・ 宗派観: シーア派を異端視するが、戦略的抑制もあった

(2) IS(イスラム国)

- ・ 思想: 極端な排他主義
- ・ 特徴: スンニ派以外をほぼ全否定、シーア派・スufi派・ヤズィディ教徒を大量虐殺
- ・ 宗派観: 最も宗派主義的(不信宣言タクフールの乱用)

(3) ヒズボラ(レバノン): 十二イマーム派

- ・ 思想: 抵抗運動(対イスラエル)、国家内国家
- ・ 特徴: 社会福祉・政治・軍事の複合体、無差別テロより「限定的軍事行動」

(注) ポイント: 本質は政治と統治の失敗

- ・ イスラム過激派にスンニ派系が多いのは、人口比と政治環境の結果
- ・ シーア派過激派は国家化・準国家化しやすく、宗派は動員と正当化の「道具」

2. 1979年イラン革命とシーア派政治思想の転換

・ 革命前の主流理解

お隠れイマーム不在の間、宗教者は政治に直接関与せず、王権や世俗政権との距離維持

・ 革命後の転換

ホメイニ師提唱「ウイラーヤト・ファキーフ(法学者の統治)」

イマーム不在時は最も有能な法学者が統治すべき。宗教権威と国家権力の制度的統合

シーア派史上でも革新的(例外的)解釈

・ イラク・ナジャフ学派

政治不介入重視、イラン型神権制に批判的

3. サウジアラビアとスンニ派ワッハーブ主義の同盟

・ 起源 「剣と信仰の同盟」(1744年)

宗教改革者: ムハンマド・イブン・アブドゥルワッハーブ(宗教的正統性)

地方権力者: ムハンマド・イブン・サウド(サウド家: 軍事・政治権力)

・ 教義: 厳格な一神信仰(タウヒード)、偶像崇拜・聖者崇敬の否定、ビドア(宗教的革新)の排除

クルアーンとスンナの文字通り解釈

・ 現在: 皇太子ムハンマド・ビン・サルマン(MBS)による事実上の「脱ワッハーブ化」

主な改革 ① 道徳警察の権限大幅縮小、② 女性の運転解禁、③ 映画館・音楽イベント解禁、

④ 觀光・娯楽産業振興、⑤ 積極的イスラムへの転換宣言

同盟は維持されるが、主従関係が逆転

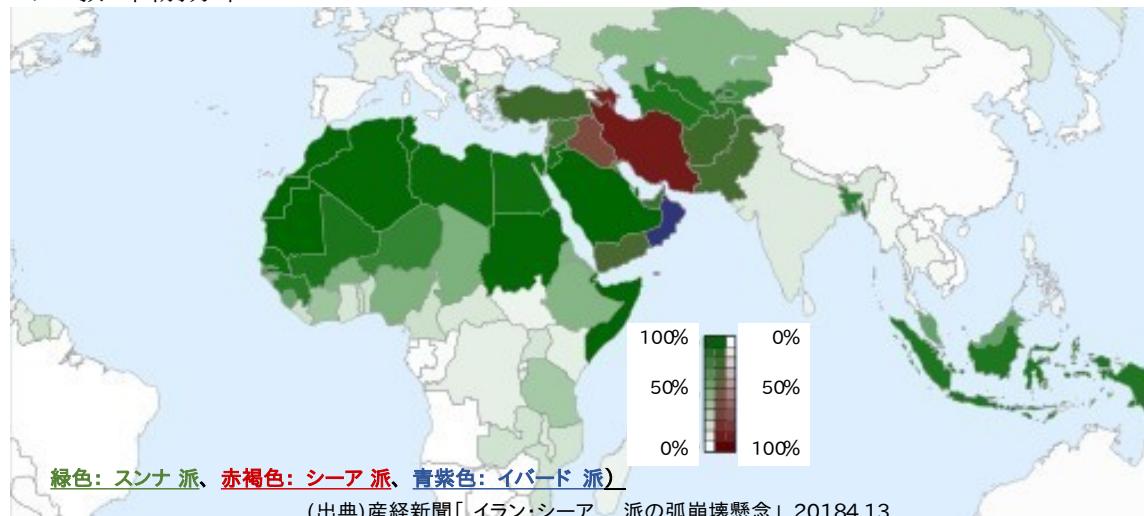
4. イスラム教に宗派が多い理由

- ① ムハンマド死後の後継者問題(632年): スンニ派: 共同体の合意 / シーア派: 預言者の血統
- ② 教義より「解釈」を重視する宗教構造: 聖典は同じ、解釈が違う
- ③ 中央集権的教会が存在しない: 統一権威が不在、各地の学者・法学者が独立して判断
- ④ イスラム法(シャリーア)が生活全体を覆う: 地域・慣習・政治条件の違いから法解釈の違い
- ⑤ 急速な領土拡大と多様な文化吸収: 7~8世紀の大拡張(中東/北アフリカ/ペルシャ/南アジア)
- ⑥ 神学論争が公然と行われた伝統: 神の属性、理性の役割
- ⑦ 国家権力が宗派形成を後押し: オスマン帝国: ハナフィー派、サファヴィー朝: 十二イマーム派
- ⑧ 異端認定が比較的弱かった(逆説的理由)異説排除より共存
- ⑨ 近代以降の政治危機が分裂を再活性化: イラク、シリア等

5. 世界の5大宗教

| | 信者数 (概数) | 誕生時期 | 神の在り方 | 聖典 | 神との仲介者 | その他特徴 |
|--------|----------------------|----------------------------|------------------------|--------------------------------|-------------------------|-------------------------------------|
| ユダヤ教 | 約 1,500万人 | 紀元前13~10世紀頃 (モーセ時代) | 絶対的唯一神 (ヤハウェ) | タナハ (特にトーラー=律法) | 預言者(モーセ等) 、ラビ(教師) | キリスト教・イスラム教の宗教的源流、選民思想、食物規定、安息日遵守 |
| キリスト教 | 約 24~25億人 (世界最大) | 1世紀 (イエスの教えと復活信仰) | 唯一神 (三位一体: 父・子・聖霊) | 旧約聖書、新約聖書 | イエス(唯一の救い主)、聖職者(司祭・牧師) | 「信仰による救い」重視、分派: カトリック、正教会、プロテスタント等 |
| イスラム教 | 約 20億人 (世界2位) | 7世紀 (ムハンマドが啓示を受けて成立) | 唯一神アッラー (絶対的一神教) | クルアーン(神の直接の言葉)、ハディース(ムハンマドの言行) | 預言者ムハンマドが「最後の預言者」 | 五行を重視、豚肉禁止・戒律、社会制度の影響大、スンナ派とシーア派に分派 |
| 仏教 | 約 5~6億人 | 紀元前5世紀頃 (釈迦の悟り) | 創造神を否定 (非神論) | 三蔵(パーリ仏典)、大乗經典等 | 僧侶(比丘、比丘尼) | 上座部仏教: 自ら悟りを求める。大乗仏教: 衆生救済、菩薩信仰 |
| ヒンドゥー教 | 約 12~13億人 | 紀元前1500年以降 (ヴェーダ宗教の発展) | 多神教: ブラフマー、ヴィシュヌ、シヴァ等 | ヴェーダ、ウパニシャッド、マハーバラタ等 | 僧侶(バラモン) 、グル(導師) | 解脱、輪廻(サンサーラ) 、カルマ(業) 、ヨガ思想、カースト制度 |

6. イスラム教の国別分布



7. イスラム教徒の6信(信心)と5行(義務)

| 六信 (信心) | 唯一神アッラー |
|------------|-----------------------------|
| 天使 | 神と預言者の仲介者(大天使ガブrialが最上位) |
| 啓典 | 神の啓示を示す書(『クルアーン』『聖書』など) |
| 預言者 | 神の意思を伝える者(モーセ、イエス、ムハンマドなど) |
| 来世 | 現世の人間活動の報いを受ける場 |
| 天命 | すべてはアッラーの思し召しという運命 |

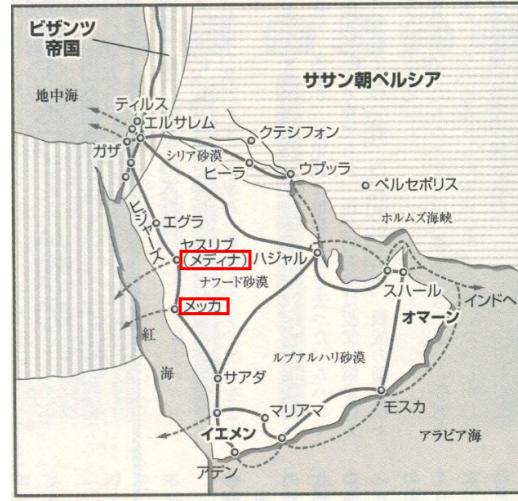
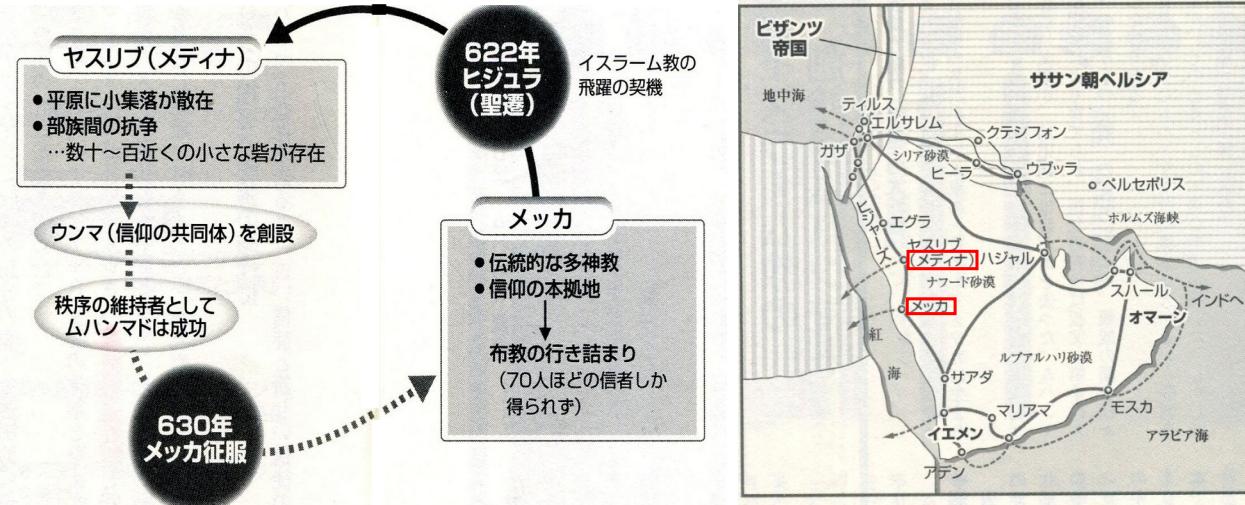
(出典)
[eren's diary](#)

| 五行 (義務) | 信仰告白 | 礼拝 | 喜捨 | 断食 | 巡礼 |
|-------------|--------------------------|-----------------------|-------------------|--------------------|-----------------|
| | 「アッラーの他に神はない。ムハンマドはその使徒」 | 「アッラーの名前で5回、祈りを捧げること」 | 「自分の財産を貧しい人にほどこす」 | 「1年に1カ月、日の中の飲食を断つ」 | 「一生に一度メッカに巡礼する」 |

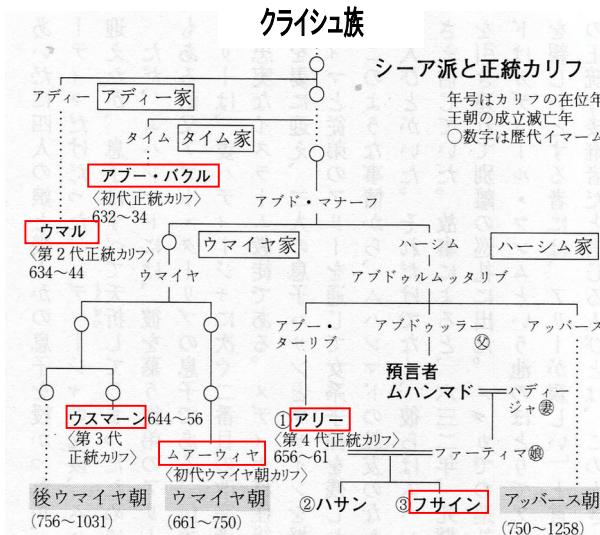
(出典)
[お茶の水セミ](#)

8. ムハンマドの聖遷(ヒジュラ)とメッカ征服

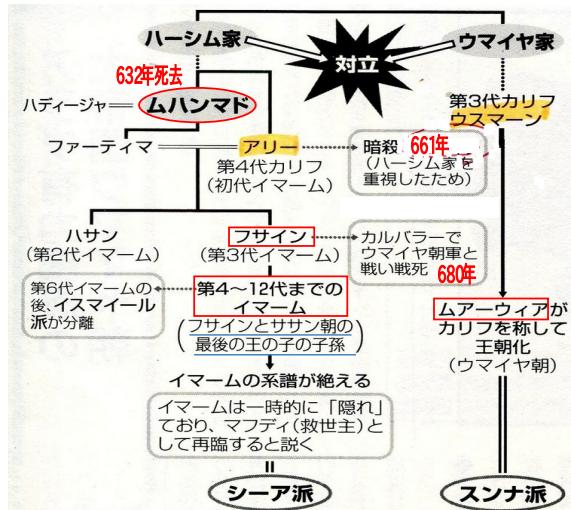
9. 7世紀のアラビア半島



10. クライシュ族の家系図



11. シーア派・スンニ派の対決と分離



12. ウマイヤ長朝の下でのイスラム帝国の急拡大(7~8世紀)

